

平成27年度「みえの現場“やっぱし” すごいやんかトーク」の概要

平成27年11月28日（土）に、メッセウイング・みえで、「みえの現場“やっぱし” すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は会場に、県内小・中・高等学校のPTA関係者400名以上が集い、司会の三重県PTA連合会常務理事加治さんと知事が「家庭教育について」をテーマにトークセッションを行いました。

時折、司会者が投げかけた質問に対し、会場の皆さんが色札を挙げて答えるなど、会場が一体になっての参加型のトークセッションとなりました。



Q 知事の子育てに対する考え方や方針などについて教えてください。

（知事）色々な体験をするチャンスや可能性をつぶさないような会話やコミュニケーションを心がけようと、家族と話しています。

また、父親が育児に参画することの意義については、男磨きにもつながると思っています。子どもはどう反応するかわからないので、不測の事態への対処や、家事と仕事を両立させるためには時間配分が重要なので、そういう意味で仕事の段取りなどがよくなったりと、男磨きにつながるのではと思います。

Q 家庭内でお子様と何かルールを決めていますか？

会場の回答：「決めている」の札が半数を超えていました。

（知事）どんなルールを決めているか教えてください。

（会場参加者）寝る時間を8時半にしています。その時間は守れるよう、親も努力して守らしています。

（知事）睡眠と体力・学力は相関関係があると言われていきますのでそれは良いことですね。

全国学力・学習状況調査によると、三重県の小・中学生は、スマートフォン、テレビゲームなどをする時間が全国平均よりも長くなっていますので、できれば家庭で話し合いながら、子どもたちが友人との会話にもついていける範囲で、バランスをとってやってもらうと良いと思います。



Q 子どもの携帯電話の使用について、行政がルールづくりをもっと積極的にした方が良いと思いますか？

会場の回答：「行政はそこまでしなくてよい」の札が多く挙げられました。

（知事）青少年健全育成条例により、例えば、夜 10 時以降は子どもをみだりに外出させないとか、コンビニの事業者の皆さんには、夜中子どもだけで長くお店にいたら家に帰るよう促してもらうとか、携帯事業者の方にはフィルタリングについて保護者に詳しく説明してほしい等、子どもたちを守るべき大人の皆さんにお願いするルールのようなものは、いくつか条例でも決めています。子どもとの間のルールということでは、県としては、できればそれぞれご家庭ごとに決めていただいた方がよいかと思います。

Q 三重県が推進している「みえの学力向上県民運動」について、県の方針や具体的な取組みについて教えてください。

（知事）学力だけが子どもたちの能力でないのは当然ですが、いろんな場面で達成感を味わってほしい、自己肯定感につなげてあげたい、そういうチャンスがたくさんあった方がよいと思い取り組んでいます。

学校では、「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディチェック」、「ワークシート」の 3 点セットを学校でしっかり活用し、一方家庭では、生活習慣、読書習慣の確立などにご協力いただき、地域ではコミュニティスクール、学校支援地域本部などでお手伝いしていただきたい、ということで学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいきたいので“県民運動”という形にしています。

ほんの 15 分でも子どもと話す時間を作っていたり、一緒に何かをすることによって、子どもたちは見守られているという実感や自己肯定感も高まっていくのではないのでしょうか。

Q いじめの問題について、三重県での取組みについて教えてください。

（知事）三重県では、いじめ防止基本方針を作り、いじめは絶対許さないという姿勢で早期発見、早期解消する努力をしています。

専門家によるチームを作り、いじめの案件や課題がある学校に派遣する体制を整えたり、重大な事案が発生したときに原因究明する第三者委員会を作ったりしています。

子どもたちの様子で何かおかしいところはないか、ちょっとした兆しを多くの目で見守ることが大切であり、何かおかしいなと思ったことがあれば、空振りを恐れずにアプローチしてほしいと思います。

いじめ対策については、基本方針は策定しましたが、まだまだ道半ばだと思っています。いじめ防止のための基本条例などを作り、さらに積極的に取り組んでいきたいと検討しているところです。行政も大人たちも本気なんだ、という姿勢を子どもたちに示していきたいと思います。

Q PTAをやっていてよかったことはありますか？

会場の回答：ほぼ全員が「ある」でした。

（知事）どんなことがありましたか。

（会場参加者）地域とのつながりができ、楽しい思い出がたくさんできました。

Q PTAに期待することはありますか？

（知事）子どもたちとしっかり向き合って日々の変化を感じながら、何か良くない予兆があれば早期に対処してほしいと思います。

また、大人も悩みがあると思いますので、悩みを一緒に受け止め合える、聞いてあげられる仲間やつながりであってほしいと思います。

【最後に】

（知事）来年5月に伊勢志摩サミットがあります。一人でも多くの子どもたちにサミットに関わるような何らかの機会をなるべく作りたいと思っていますので、夕食時など親子でほんの少しでもサミットに関する会話をしてもらえるといいなと思います。

また、学校などでも何かサミットに参加の機会があれば、ぜひ背中を押してあげてほしいなと思います。

今日は少しではありますが自分の子どもたちや教育に関する考えを、地域でご活躍いただいているPTAの皆さんにお話しできる機会を頂き、大変ありがたく思います。

子どもたちは毎日が未来への分岐点です。これからも、行政や学校だけではできないことも多いので、子どもたちのためにぜひ力を貸していただけるとありがたいです。

